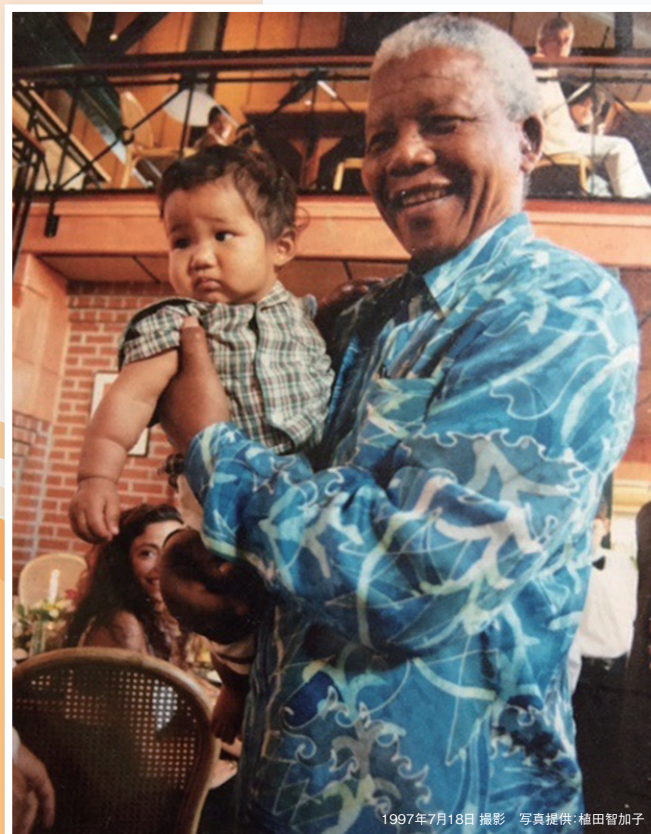


2018年度 第19回
高校生エッセー・コンテスト

～自由と民族の融和を求めて闘った～

ネルソン・マンデラに手紙を書こう

作品集 | Anthology



津田塾大学
TSUDA UNIVERSITY

今年、南アフリカ共和国の元大統領ネルソン・マンデラ（1918－2013）の生誕100年の年に当たります。かつて南アフリカは、少数の白人支配層が、多数を占める非白人を差別し、その権利を抑圧するアパルトヘイト（人種隔離政策）を進めていました。マンデラは黒人解放運動に身を投じ、アパルトヘイト撤廃を訴え続けます。しかし、その活動で「国家反逆罪」に問われ、終身刑を言い渡されてしまうのです。獄中生活は27年にも及びましたが、その間、マンデラは決して屈せず、希望を捨てることもありませんでした。1990年、ついに釈放されます。権力を握っていた白人たちは報復を恐れましたが、マンデラはさまざまな人種の融和を訴えました。当時のデクラーク大統領と共に民主化とアパルトヘイト撤廃を進め、93年には2人でノーベル平和賞を受賞。94年には初の全人種参加の総選挙で同国初の黒人大統領に就任しました。

残念ながら今も世界のあちこちで人種や宗教間の対立や格差はなくなっておらず、憎悪の連鎖が続いています。また、立場や主張の異なる人々の間での分断も広がっています。怒りや憎しみではなく、和解や融和、自由と理想を求めて闘い続けたネルソン・マンデラに、自伝からの抜粋（裏面）などを読んで、自由に手紙を書いてみてください。

※著作権上の問題で、抜粋文章はWEBサイトに掲載できません。

●●● Index

入賞作品	3
講評	4
最優秀賞作品	5
優秀賞作品	6
応募者在学校一覧	10
募集要項	12

入賞作品

応募作品 447編 (英語作品245編、日本語作品202編)

選考の結果、次の方たちが最優秀賞・優秀賞に選ばれました。(アルファベット順)



最優秀賞

東京都 都立国際高等学校 1年 黒谷 ケイト (英語)

賞状 及び 副賞5万円



優秀賞

長野県 UWC ISAK JAPAN 2年 伊藤 滯里 (日本語)

神奈川県 捜真女学校高等学部 3年 河野 雪乃 (英語)

埼玉県 県立大宮高等学校 1年 瀬戸 くるみ (日本語)

賞状 及び 副賞1万円

静岡県 静岡雙葉高等学校 1年 山下 梨佐 (日本語)

第19回 エッセー・コンテスト審査委員

委員長 / 大島 美穂 (津田塾大学 ライティングセンター長 総合政策学部教授)

委員 / 稲葉 利江子 (津田塾大学 学芸学部情報科学科准教授)

委員 / 大原 悦子 (津田塾大学 ライティングセンター客員教授)

委員 / 三砂 ちづる (津田塾大学 学芸学部国際関係学科教授)

講 評

2000年に津田塾大学創立100周年を記念して始まった高校生エッセー・コンテストも19年目を迎えました。エッセーは手紙形式で、今年のテーマは「自由と民族の融和を求めて闘ったネルソン・マンデラに手紙を書こう」でした。本学では2019年度から多文化国際協力学科を立ち上げますが、その立ち上げを記念し、マンデラに心よりの敬意を評して、エッセー・コンテストのテーマとしました。

かつて南アフリカは、少数の白人支配層が、多数を占める非白人を差別し、その権利を抑圧するアパルトヘイト（人種隔離政策）を進めていました。マンデラは黒人解放運動に身を投じ、アパルトヘイト撤廃を訴え続けます。私たちには想像のつかないような困難の中、人類最後のアパルトヘイト政策を掲げていた南アフリカの人種差別を平和裡に解決し、抑圧する側にも、抑圧された側にも大きな希望の虹をかけたマンデラ。彼の活動は、20世紀の大きな希望のともしびだったと思います。マンデラは1993年には最後の白人政権の大統領デクラークと共に2人でノーベル平和賞を受賞しました。

今回のエッセー・コンテストでは、マンデラの自伝の一部（英文）を読んでもらい、高校生のみなさんにマンデラの言葉をどう受け止めたか書いてもらいました。怒りや憎しみではなく、和解や融和、自由と理想を求めて闘い続けたマンデラのことを今回、初めて知ったという生徒も多くいたようでしたが、全国から447件の応募があり、昨年同様、今年も英語で書かれたエッセーが過半数を占めました。評価においては、日本ではなじみの薄いテーマをいかに自分に引き寄せて考え、深められるかがポイントになりました。

なかでも最優秀賞に選ばれた黒谷さんは、高校生離れした圧倒的な筆力、表現力で審査員全員の心を打ち、構成、オリジナリティー、文法などすべてにおいて優れていました。

自身の経験に引き付けながら、それに止まらずさらに一段高いところにまで考察を深め、比喩なども効果的に用いている点、また「手紙」らしい様式で書くなど、細部にまで工夫や心配りができていた点が高く評価されました。

優秀賞では、人種間の激しい対立や犯罪の原因は「制度にある」と考え、弁護士になりたいという夢と決意をしっかりと語ってくれた瀬戸さん。グローバルな視点からパレスチナ問題に目を向け、マンデラのように決して諦めず、非暴力で和解や民族融和を目指す決意を力強く綴った伊藤さん、身近な「いじめ」の問題からマンデラの言葉を噛みしめ、対立した時こそみんなの幸せを願える人間になりたいと、高校生らしい、瑞々しい文章を綴った山下さん。「差別された側」でありながら「差別する側」にもなっていた自身の経験を振り返り、差別に対してははっきり「ノー」と言える人間になりたい、と述べた河野さん。どの作品も自分の視点から深く社会を考えている点が心に残りました。

2018年度 第19回高校生エッセー・コンテスト 審査委員長

総合政策学部教授 大島 美穂



最優秀賞

黒谷 ケイトさん

東京都 東京都立国際高等学校 1年

Dear President Mandela,

Cerulean-blue crystals of roller waves kiss my feet as I currently walk along the shores of Ubara Beach, while I embrace the utmost honor of writing a letter to celebrate the 100th birthday of one of the world's greatest leaders. If heaven only had a messenger, I hope he could deliver my letter of reflection and gratitude to you. Now, please allow me to share my story.

Fresh in my childhood memory was the time when my 1st Grade teacher announced the honor students of our class. The last name was called out, but it wasn't me. My failures continued to feed my insecurities, causing me to become a perfectionist beast. I became a dark-skinned teenager with a relentless frowning face who valued grades better than friendships.

During our elementary graduation, with a proud expression, I walked towards the pulpit as I was about to deliver my valedictory speech. Yes, Mr. President. I succeeded. However, as I was leaving the venue, I heard other parents whisper negative comments about me. Undeserving. Mediocre. Average. I showed a smile despite the afflictive words.

In high school, mainstream media embarked the new set of standards for the definition of beauty. I joined the bandwagon of aspiring for a whiter skin. Advertisements had tag lines like "Black is out, white is in." I used whitening products causing me to have paler complexion than before, but people still had negative comments about my skin.

As I looked at the gentle waves touching the rocks on the shore, I found a great metaphor towards life. The waves kept on hitting the rocks, but the rocks don't hit the waves back. After all, tiny waves can't break sturdy rocks, right? As I read your biography, *Long Walk to Freedom*, I was inspired by your humility. Instead of waging a war against white people, you still chose peace and pacifism. If someone does something unpleasant towards us, we have to be valiant enough to forgive, sometimes, even without the apology we deserve. Vengeance only poisons the goodness in us, which causes our thoughts to be our own demons and adversaries.

Around the world, heavier cases of discrimination still continue, but through your story, we learned self-acceptance and respect for others despite being under the most inhumane circumstances. For that, we are always thankful.

Long live your spirit, Madiba! Ngiyabonga.

Sincerely yours,
Kate Kurotani



優秀賞



伊藤 滯里さん

長野県 UWC ISAK JAPAN 2年

ネルソン・マンデラさんへ

非暴力には限界がある。マンデラさんも、いつかはそう思われたでしょうか。

私の親友はパレスチナのガザに住んでいます。ガザの人々の尊厳が、イスラエル軍により踏みにじられている状況が続いていることを知ったら、マンデラさんはきっと悲しまれることでしょう。イスラエルの兵士は、名前も知らない人に銃を向けるように教えられ、パレスチナ人を撃つことを誇りに思う人もいます。しかしその一方で、それらを罪に思い、退役後、パレスチナ解放のために働くイスラエル人もいるのです。

イスラエル兵とパレスチナ人は、互いに顔も知らない相手を憎み合っています。政治的な背景、憎しみを、なぜ関係の無い人々が代弁しなければいけないのでしょうか。アラブ人もユダヤ人も同じ人間だということに、なぜ気づけないのでしょうか。親友が1度だけ、彼の周りで亡くなった人や生活を失った人の話を、私にしてくれたことがあります。その時の彼の悲しい瞳は、今でも私の心を締め付けます。

彼が日本の学校でカフィーヤを首に巻いた時「テロリストだ」とアフリカ人の同級生から言われたことがあります。冗談だったのかもしれませんが、彼は深く傷つきました。「テロリスト」はイスラム教徒の罪ではありません。ガザで絶えず犠牲になる人々や、武装闘争路線を維持するハマスが生まれた理由を考えれば、極限まで追い詰められた人々が武力の行使を選択し「テロリスト」になってしまったとしても、私たちには、批判することはできないのではないかと思うのです。

ハマスを除き、ガザの住人は未だ、非暴力を推進しています。もしくは、暴力を行使できるだけの資源が彼らには無いからでしょうか。しかし、タイヤを燃やしたり石を投げたりするだけで、ガザの抗議者はイスラエル軍から、実弾や催涙弾を撃ち込まれます。攻撃対象になるべきでない、医療従事者やボランティアも殺されています。ハマスがこのまま存在し、イスラエルが武力行使を続ける限り、状況は悪化するだけです。

平和的な解決が1番です。憎しみ合い、攻撃し合うことは、歴史にまた傷を残し、問題の根本的な解決にはならないでしょう。しかし、ガザの人々は、長期にわたる獄中生活を余儀なくされたマンデラさんのように、希望を持ち続けて「天井の無い監獄」の中で耐えることができるでしょうか。誰も傷つけずに、彼らは自由を手に入れることができるでしょうか。

私は、マンデラさんの思いが世界に認められたように、パレスチナの人々の思いも世界に届くように願わずにはられません。マンデラさんは当時の大統領を始め、多くのサポートを勝ち取り、憎しみをなくすことに尽力されました。ガザの人々も、もう彼らだけでは、平和的な解決に導くことは困難です。イスラエル軍を止められるのも、ハマスの暴走を止めるのも、これらを外から見ることができる、私たち諸外国の人間ではないでしょうか。同じ土地を愛する民族同士が、共に手を取り合える未来。マンデラさんが諦めなかったように、和解や民族融和に向け、これからの私たちがサポートしていきたいと思っています。

伊藤滯里



優秀賞

河野 雪乃さん

神奈川県 捜真女学校高等学部 3年

Dear Mr. Mandela,

When I read a part of your autobiography and a story about your life, I was really surprised. This is because I found out that you forgave the people who had put you into prison even though you had been locked there for 27 years. I think this is very difficult for most people, including me. You are surely a symbol of freedom whom we should learn from. I express my genuine respect to you.

The phrase which impressed me most in your autobiography was, "I am not truly free if I am taking away someone else's freedom, just as surely as I am not free when my freedom is taken from me." This is because I had a similar experience.

It was when I was studying in Spain one and a half years ago that it happened. In Spain, there are not only the Spanish but also many immigrants from various areas, such as Africa, the Middle East and Asia. Therefore, Spain is often said to be a society tolerant of ethnic diversity. However, one day, when I walked down the hallway of my host school, a strange boy said to me, "China!!". I was shocked and felt anger rise in my heart because I thought he made a fool of me. At the same time, I thought "I'm Japanese! Don't mistake me for Chinese!".

After coming back home from school, to think about it calmly, I realized that I was looking down on Chinese people just like the boy who was looking down on me. In other words, I was the oppressed and also the oppressor. Even though I didn't attack Chinese people directly, looking down on them in my mind was the same thing, and it could become a bigger discrimination. I felt a little scared of myself who had a sense of discrimination, but I made up my mind to take an impartial view on everyone and make them and myself free.

Although the world is becoming more and more globalized, there are still many racial, religious and ethnic hatreds in the world. Even the leader of a country which has the biggest power in the world is making discriminatory remarks. I'm sure you are filled with anxiety about the future, looking down this world from heaven. I might be unable to change the world greatly like you. However, if my family or my friends make a discriminatory remark tomorrow, I will say "NO".

Best regards,
Yukino Kono



優秀賞



瀬戸 くるみさん

埼玉県 埼玉県立大宮高等学校 1年

ネルソン・マンデラさん、あなたの生きた一瞬一瞬は、私の心にいつまでも印象深く残ることでしょう。あなたが弁護士として人権を訴えた堂々たる威厳が。会見の際には、夜遅くまで働く記者たちをいたわったあたたかな心が。「南アフリカはそこに暮らしているすべての人々のものであり、白人であれ黒人であれ、ひとつの集団のものであるとは思っていません」。この言葉を生んだあなたの目には、きっと国境など映っていませんでした。一人の人間を一人の人間としてみる、寛容で慈愛に満ちた瞳が、そこにはありました。

私は、そんなあなたについての本を読みました。その中でも強く印象に残った部分があります。あなたは、フィルンソンさんとの会談の中で、一貫してアフリカンス語を使用した、というエピソードです。フィルンソンさんは対マンデラを唱えるグループのリーダー的存在であったこと、当時はアフリカンス語を学ぶことは敵への降伏を意味していたことを知ったとき、その行動に秘められた勇気に胸をうたれました。あなたはアフリカーナの歴史、英雄の名前や功績、アフリカンス語で書かれた文学にも触れました。「相手のことを知る」。私は、この精神こそ、弁護士という職業に最も必要なものだと感じました。

私には、弁護士になるという夢があります。私が考える弁護士とは、罪を犯してしまった被告人に寄り添い、ともに罪と向き合うことで被告人を更生させることのできる唯一の存在です。確かに被害者の負った傷の深さに私の想像は決して及びません。ですから、被告人の犯した罪しか知らない世間が彼らに向けるのは、冷たく鋭い刃の眼差しなのでしょう。しかし、弁護士は被告人の目を見て話すことができます。その権利は同時に、被告人のことを理解し、徹底的に向き合う責務を意味しています。

「私たちは白人を憎んでいるのではない。彼らの犯した罪を憎んでいるのだ」。人種隔離政策に影響を受けた当時の社会環境がなければ、凶悪な犯罪や人種間の激しい対立は生まれなかったであろう。問題の本質は制度にあるのだ。あなたはそうのように考え、アパルトヘイト撤廃への道を拓いたのでしょ。あなたのこの言葉が、私の考えの全てを表しています。

ここ日本では、現在でも残虐な事件が人々を震撼させています。私は、友達や親との関係をうまく築けない環境が、事件の加害者を生む要因になっていると考えています。もしも犯人と真正面から向き合い、理解し、存在を認めてくれる人がいたら、凶悪な犯罪は生まれなかったのではないかと考えてしまいます。私は、今ここに冷たい孤独を感じ、社会に居場所を見いだせず苦しんでいる人にとって、そんな存在になりたいのです。

「私たちは自分の中にある、神の光を表現するために生まれてきたのだ。それらは限られた人たちだけに許されていることではない。すべての人がそのために生まれてきたのだ」。マンデラさんのこの言葉が、私に勇気と自信を与えました。今、自分の中の光を見失っている人にも、自由を感じ、光り輝く権利があるのです。私は弁護士として、その権利を守りたい。あなたの言葉が多くの人々に希望を与えたように。

瀬戸 くるみ

優秀賞



山下 梨佐さん

静岡県 静岡雙葉高等学校 1年

ネルソン・マンデラ様

あなたのスピーチに大変感銘を受けて、お手紙を書かずにいられませんでした。それというのも、あなたの「弾圧する側もされる側も解放する」という思想にびっくりしたからです。私はスピーチを読むまで弾圧する側を救うという発想すらなかったので、とても驚きました。

私は小学生の頃、いじめを受けたことがあります。その頃はいじめが大きな社会問題になっていて、テレビでも連日「いじめっ子が百パーセント悪い」「傍観者はいじめっ子と同じ」などと、いじめの原因や、結局誰が悪いのかという議論がなされていました。私自身、いじめを受けていた身としては、いじめっ子が全部悪い、許せないと考えていました。もし、いじめが裁判で裁けるのだとしたら、私はきっと、いじめっ子に償ってほしいと訴えただろうし、自分が彼らの上の立場になったとしたら復讐したいと考えてしまいます。

そんな私だからこそ、白人からアパルトヘイトといういじめを受けた黒人の代表として、あなたが「民族どうしの融和」を選んだということが本当にすごいことだと分かります。

黒人の人々はあなたに「白人への復讐」を求めていたし、もし私がマンデラさんだったら、自分が閉じこめられ家族をひどい目にあわされた憎しみのあまりに、迷わず白人を弾圧する政策を施行してしまったと思います。

憎しみの連鎖はどこかで止めなければならない。そんなことはみんな知っているけれど、自分の憎しみを止めて綺麗事を貫くことができる人がどれだけいるでしょう。

しかし、自分が二十七年も牢屋で、家族となかなか会えない苦しい獄中生活を強いられた当事者であるにも関わらず、あなたは白人と和解しようとしていました。

今、目の前で自分を貶めている相手を「こいつも生まれたときから悪いやつだったわけじゃないから」と許す。獄中の自分が一番自由を奪われているのに「黒人だけでなく白人も自由を奪われているんだ」と誰より広い視野で物事を考える。皆が憎しみに囚われて互いを憎しみあっているなか、民族みんなから復讐を望まれる立場からあえて「白人も黒人も手を取り合おう」と叫ぶ。あなたのその心の強さ。それらは全て、自分だけの感情にとらわれず常に他の人のことを考えているからこそ生まれたものだと思います。私もあなたのように人のことを考え、みんなの幸せを願える人間になりたいと思いました。

私はまだ高校生で、経験したこともないことがこれから先たくさんあるはずで。人と仲良くなることもあれば、対立することもあるでしょう。しかし、対立した時こそ自分だけの憎しみに囚われるのではなく、相手も自分も周りの人もみんな幸せになれる方法を探そうと思います。それはとても大変なことだと思うし、正直できるか不安でもありますが、みんなが幸せになれる世界をめざして頑張ろうと思います。

自由のために闘ったマンデラさん、どうか私のこの決意を応援してください。

山下 梨佐

応募者在学高校 (2018年度)

都道府県	公私	学校名
北海道	道立 私立	帯広柏葉高等学校 札幌聖心女子学院高等学校
宮城県	市立	仙台青陵中等教育学校
山形県	県立	東桜学館高等学校
福島県	県立 私立	安積高等学校 尚志高等学校
栃木県	県立	真岡女子高等学校
東京都	私立 私立 国立 都立 私立 都立 私立 私立 私立 私立 私立 国立 私立 都立 都立 私立 私立 私立	桜蔭高等学校 鷗友学園女子高等学校 お茶の水女子大学附属高等学校 小石川中等教育学校 國學院大學久我山高等学校 国際高等学校 駒澤大学高等学校 白梅学園清修中高一貫部 渋谷教育学園渋谷高等学校 淑徳巣鴨高等学校 晃華学園高等学校 成蹊高等学校 玉川学園高等部 東京学芸大学附属国際中等教育学校 桐朋女子高等学校 三鷹中等教育学校 三田高等学校 三輪田学園高等学校 明治大学付属明治高等学校 宝仙学園高等学校共学部
神奈川県	私立 私立 私立 私立	カリタス女子高等学校 湘南白百合学園高等学校 捜真女学校高等学部 横浜雙葉高等学校

都道府県	公私	学校名
千葉県	私立 市立	国府台女子学院高等部 船橋高等学校
埼玉県	私立 県立 私立	大妻嵐山高等学校 大宮高等学校 獨協埼玉高等学校
静岡県	私立 私立 県立 私立	加藤学園高等学校 静岡雙葉高等学校 富士宮東高等学校 浜松聖星高等学校
長野県	私立 私立	文化学園長野高等学校 UWC ISAK JAPAN
富山県	県立 私立 私立	新湊高等学校 富山国際大学附属高等学校 富山第一高等学校
愛知県	県立	東海南高等学校
兵庫県	県立 県立	明石城西高等学校 神戸高塚高等学校
広島県	私立 私立	広島女学院高等学校 AICJ高等学校
徳島県	市立	徳島市立高等学校
山口県	私立 私立	宇部フロンティア大学附属香川高等学校 サビエル高等学校
熊本県	県立	第一高等学校

募集要項

- 募集内容** ネルソン・マンデラに宛てた手紙形式のエッセーを書いてください。英語の場合は400words程度、日本語の場合は1,200字（横書き）程度にまとめてください。
- 応募資格** 高校生（国籍・学年・性別・居住地は問いません）
- 応募方法** ①A4またはそれに準ずる大きさの用紙で手書きまたはパソコン使用。
②応募作品に、氏名（フリガナ）・性別・住所・電話番号・高校名（所在県名）・学年を記載した表紙（上記①と同じ大きさの用紙）を添付して、下記に郵送してください。（ホッチキス留めはしないでください）
- 郵送先** 〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-9-9 TSビル1F
（株）栄美通信 津田塾大学 高校生エッセー・コンテスト係
- 募集期間** 2018年8月1日（水）～8月30日（木）必着
- 表彰** 最優秀賞1名（賞状及び副賞5万円を贈呈）
優秀賞若干名（賞状及び副賞1万円を贈呈）
最優秀作品は、10月7日（日）津田塾大学において表彰し、津田塾大学広報誌『Tsuda Today』と津田塾大学ウェブサイトに、優秀作品は津田塾大学ウェブサイトに掲載・公表します。また、入賞者には10月5日（金）までに本人に通知します。なお、応募作品は返却しません。応募作品の著作権はすべて津田塾大学に帰属します。
- お問い合わせ** 津田塾大学ライティングセンター 高校生エッセー・コンテスト係
TEL：042-342-5129 E-mail：essaycon@tsuda.ac.jp

津田塾大学ウェブサイトで、第1回～18回の高校生エッセー・コンテスト選考結果等を掲載しています。

..... <http://www.tsuda.ac.jp/>



株式会社栄美通信は、広告代理業として各事業（進学情報事業・企業広報事業・教育広報イベント事業・企業広報イベント事業・進学情報誌出版事業等）の個人情報を適正に取り扱い、個人情報の保護を徹底することが社会的責務であると認識し、「個人情報保護方針」を制定してお客様に安心して弊社のサービスをご利用いただけるよう、全従業員がこの方針に従って個人情報保護に対する取組みを実施しております。

個人情報についてのお問い合わせは【お客様相談窓口】TEL 03-3561-0471 [平日 10:00～17:00 (12:00～13:00 と土日祝日を除く)]



<http://www.tsuda.ac.jp/>